

在シドニー総領事通信

第 48 回 「日豪コミュニティ」を構築する

令和3年（2021年）9月16日

春が来ました！夜明けが徐々に早くなり、約2週間後の10月3日（日）からは夏時間に移行します。日中の気温も25度を超えるようになりました。陽気に誘われて、外に出たい季節ですね。

幸い、外出制限令（ロックダウン）解除の時期が近づいてきました。NSW州では、コロナ新規感染者数は引き続き1日千数百人ですが、ワクチン1回接種割合は他州に先駆けて昨日80%を超えました。先週、NSW州政府は外出制限令解除に向けた出口戦略（ロードマップ）を発表しました。ワクチン2回接種割合が70%を超えた翌週の月曜日から、ワクチン2回接種完了者を対象に、他家庭訪問や店舗営業などが認められるようになります。これでおそらく10月中旬から、シドニー大都市圏でもカフェやレストランが再開する見込みです。あと一息です！

今回のロックダウンで、着任以来約2年間の仕事と生活を振り返り、これから何に取り組むべきかをじっくり考えることができました。その中で改めて重要と感じたのは、豪州と長年関わっている日本人、日本と長年関わっている豪州人が当地で多数活躍していることです。これらの人たちは、日豪両国を深く理解して愛着を持っており、いわば日豪双方が彼らのアイデンティティです。

このような日本人や豪州人が目に見える形で結びついて「日豪コミュニティ」を形成すれば、日豪協力を更に進める上で重要な担い手、原動力、知恵袋、触媒となるのではないのでしょうか。その力を活用することで、日豪両国がお互いの強みを生かして多文化社会の発展やイノベーションの推進を加速し、世界をリードできるように思います。

今回の総領事通信では、日豪両国に深い理解と愛着を持ち様々な分野で活躍している人たちをご紹介しながら、「日豪コミュニティ」を構築することの重要性について皆様と一緒に考えていきたいと思っております。



Voice Collage [“I Still Call Australia Home”](#)

(2021年9月1日 YouTube 公開)

●豪州が第二の故郷の日本人

現在開催中の [Japanaroo 2021](#) には、シドニーを中心に 50 以上の日豪双方の団体・企業が参加しています。その中でも、日豪友好の架け橋となるメッセージを感じたのは、Voice Collage の [“I Still Call Australia Home”](#) です。

コロナのロックダウン下で、シドニー、メルボルン、ブリスベン、ゴールドコースト、ニューカッスルに住んでいる日本人 32 名が、自分たちにとっての第二の故郷となった豪州に、愛と感謝の気持ちを込めて歌った合唱の動画です。歌声やユーモラスな衣装、そして笑顔から、豪州に対する愛情が伝わってきます。約 6 分の短いものですので、[是非ご覧ください](#)。

なお、[最新（昨年 10 月現在）の統計](#)では、豪州に住んでいる日本人は現在約 10 万人で、米国と中国に次ぎ第 3 位です。うちシドニー大都市圏には約 3 万人が住んでおり、ロスアンゼルス、バンコク、ニューヨーク、上海、シンガポール、ロンドンに次ぎ第 7 位です。メルボルンは約 2 万人で第 11 位です。数多くの在留邦人が豪州での生活を素晴らしいと感じ、愛着を持っていると思います。

*If you like rice driven styles, look for
the word Junmai (without ginjo)*



[“Sake 101 – Taste and Learn”](#) – Sakeshop by Chef’s Armoury
(2021年9月8日～10月2日)

●日本を深く知っている豪州人

普通の日本人よりも日本のことをはるかに知っている豪州人もたくさんいます。例えば、Sakeshop のリー・ハドソンさんはシドニーとメルボルンで日本酒販売店を経営し、日本の様々な酒蔵から日本酒を直接輸入しているほか、日本酒に関する様々な講習会も開いています。

今回、Japanaroo 2021 では対面行事を開催できなくなったので、4種類の日本酒の宅配とビデオを組み合わせて、初心者向けの利き酒講習会 [“Sake 101 – Taste and Learn”](#) を企画いただきました。私も早速参加しましたが、豪州人の関心に合わせ、疑問に答える形で日本酒の選び方や食事との組み合わせ方を説明していて、大変わかりやすいと感じました。10月2日まで開催中です。

日本酒以外にも、Japanaroo には日本茶・茶道、生け花、日本美術などについて、一般の日本人よりもはるかに詳しく愛着を持っている豪州人が参加、出展しています。当地で日本文化を知ってもらうためには、このような豪州人こそが大きな役割を果たしています。Japanaroo のイニシアティブを通じて、このような人々たちを後押ししつつ、お互いに出会う機会を設けたいと思っています。



NSW 州/AJBCC/JETRO 共催ウェビナー
「NSW 州の新たな日本へのコミットメント」 (2021 年 9 月 15 日)

●AJBCC-JETRO 共催ウェビナー・シリーズ

日豪ビジネスでは、本年 7 月の総領事通信第 45 回「[日豪ビジネス 3.0](#)」でご紹介したとおり、両国の経済界が日豪経済委員会 (JABCC) と豪日経済委員会 (AJBCC) をそれぞれ設置し、両委員会の合同会議を 1963 年から毎年、日豪交互に開催してきています。

AJBCC の役員や事務局長は、長年日豪ビジネスに携わってきた人ばかりです。その知見とネットワークを更に生かすために、AJBCC と JETRO が共催するウェビナー・シリーズが立ち上がりました。8 月 10 日に開催された第 1 回の「[日豪水素サプライチェーンの展望－NSW 州を中心に－](#)」には約 350 名が参加しました。資料も動画もアーカイブで見られます。

9 月 15 日には、NSW 州投資庁 (Investment NSW) も共催に加わり、第 2 回ウェビナー「[NSW 州の新たな日本へのコミットメント](#)」が開催され、約 150 名が参加しました。10 月 5 日にはオンラインで[日豪経済合同委員会会議](#)が開催されますが、年内には第 3 回ウェビナーの開催を検討中です。このように、日豪双方の企業関係者が定期的かつ頻りに顔を合わせる場ができたことを嬉しく思っています。

Need to create our Ecosystem

- **Liquidity drives liquidity**
- Need to build a hub that adds value
- Most hubs that claim they're global do nothing other than claim it
- **How?**
- Building better global businesses by matchmaking & collaboration on R&D
- Multilingual summaries w/ value added info
 - Key contacts
 - 1 page only – keep it simple
- Bringing Corporates into the ecosystem to give legitimacy
 - Corporate “finishing schools” in hubs with active programs who operate streams in core competencies.
- Be commercial
 - Investors far more likely to invest in businesses that collaborate and grow potential marketplaces



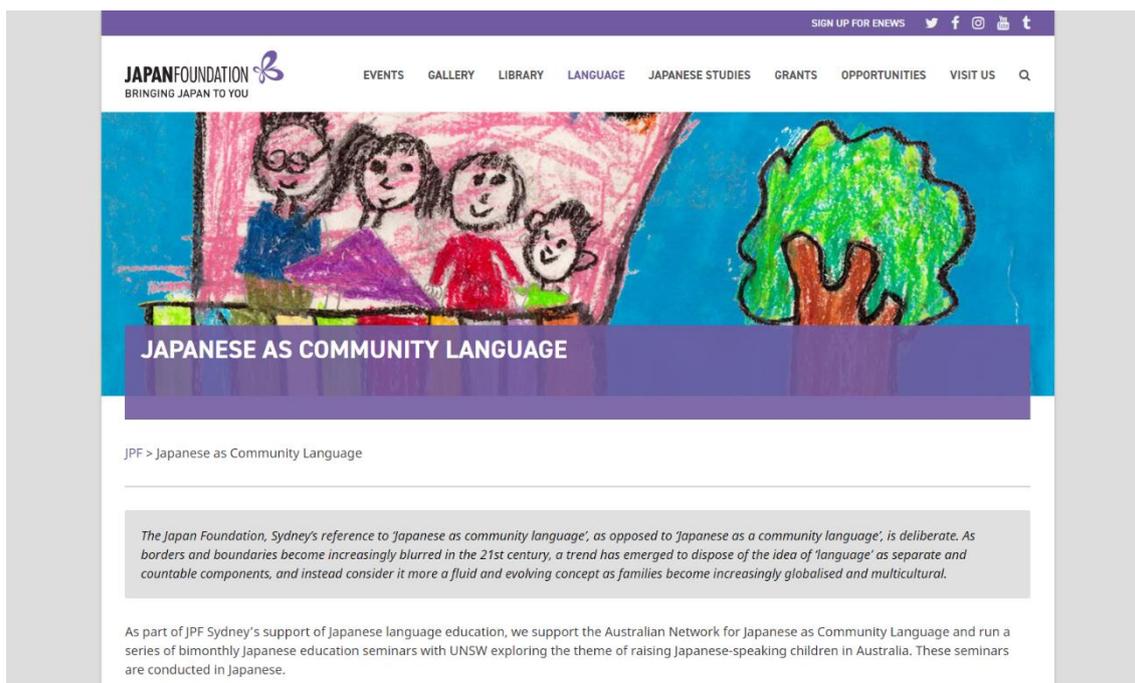
日豪イノベーション・ラウンドテーブル (2021年9月8日)

●日豪イノベーション・ラウンドテーブル

更に、スタートアップとイノベーションの分野でも、当地で日豪関係者の対話が進んでいます。9月8日、NSW州投資庁と在シドニー日本国総領事館、JETROの共催で、日豪イノベーション・ラウンドテーブルがオンラインで開催されました。

席上、マイケル・ニューマン NSW州駐日貿易投資上級代表から、豪州のスタートアップと日本の大企業を結び付ける新たなエコシステムを構築するとのアイデアが提示されました。引き続き日本企業3社から、豪州スタートアップとの連携事例やビジネスモデルの説明があり、今後の協力枠組の具体化に向けての意見交換が行われました。

ニューマン代表は日本で約20年間のビジネス経験があり、日本語も極めて堪能で協議に全く支障がありません。また、NSW州の[シドニー・スタートアップ・ハブ](#)には既に[スタートアップ・コミュニティのウェブサイト](#)があり、様々な情報が日本語に自動翻訳されています。今後、このスタートアップとイノベーションの分野で新たな日豪協力の枠組を立ち上げられるよう、引き続き検討を進めたいと思います。



国際交流基金「[繫生語としての日本語](#)」ウェブサイト

●豪州で日本語を使う子どもを育てる

子どもの時から豪州で育ってきた日本人や日系豪州人も、日豪両国にアイデンティティを持っています。これからも豪州で生活していく見通しの中で、なぜ、どのような日本語を学んでいくのかが、それぞれの子どもや家庭にとって大きな課題になります。

このような子どもの日本語教育も、日本政府としてしっかりと支援していくことが、2019年になって法律と基本方針（閣議決定）で定められました。本件は昨年12月の総領事通信第31回「[オーストラリアで日本語を使う子どもを育てる](#)」で取り上げたところです。その中でご紹介した日本語補習授業校と国際交流基金、日本語教育研究者、当館の会合は、その後も半年毎に開催しています。

昨年10月に始まった[国際交流基金・NSW大学共催ウェビナー](#)も既に5回開催され、全てアーカイブで事後視聴できるようになっています。また、[Facebookグループ](#)にも既に500名以上が参加しています。

9月25日（土）に開催予定の[次回ウェビナー](#)では、NSW大学のトムソン木下千尋教授を迎えて、以上のような繫生語（継承語）としての日本語の豪州全国調査報告と、特に漢字学習について議論が行われます。ご関心のある方は是非ご参加ください。

JET PROGRAMME
THE JAPAN EXCHANGE & TEACHING PROGRAMME

APPLY NOW!

DEADLINE:
5PM FRI 12 NOV 2021

LIVE & WORK IN JAPAN!
follow link for more info

JET プログラム公募開始
(2021年9月8日～11月12日)

●JET プログラムの公募開始

日本と深くかかわる豪州人の輪を広げていく上で、長年にわたり最大級の成果を上げているのが、若者を英語指導助手や国際交流員として日本各地に派遣する「JET プログラム」です。昨年11月の総領事通信第29回「[JET プログラム：一生役に立つ日本での経験のために](#)」でも取り上げましたので、詳細はそちらをご覧ください。

先週から、いよいよ [2022年派遣生の公募](#)が始まりました。締切は本年11月12日です。当館では、[第1回オンライン説明会](#)を9月17日（金）に早速行う予定です。

今回の Japanaroo 2021 の企画運営でも、[JET 同窓会 NSW 州支部 \(JETAANSW\)](#) が大きな役割を担っています。また、当館や JNTO、CLAIR、国際交流基金といった当地の日本政府機関でも JET の卒業生が活躍しています。

これから日豪関係が一層深化していく中で、日本の社会・組織の中で若い時期を過ごした豪州人は、一層貴重な存在になっていくと思います。本年11月12日締切の JET プログラム公募にも、是非意欲のある豪州人の皆様に多数応募していただければ幸いです。



シドニー湾の日の出
(2021年9月4日)

●「日豪コミュニティ」を構築する

以上ご紹介した皆様をはじめ、文化、食、ビジネス、観光、教育、地方交流など幅広い分野で、豪州と深く関わる日本人、日本と深く関わる豪州人が当地で多数活躍しています。分野毎に多くの課題と可能性があるため、今はそれぞれが目の前の活動に全力で取り組んでいます。このような日本人と豪州人が分野を横断してお互いに出会い、協力していけば、更に大きなインパクトを生み出せるように感じています。

そして、当地には多くの日本関係団体・日豪交流団体、日豪ビジネス団体、日豪ビジネスを担う企業があり、それぞれが大きな力を持っています。その中には日本人主導のものも、豪州人主導のものもあります。このような団体や企業の人たちが、既存の枠を超えて出会い協力する持続可能な場、すなわち「日豪コミュニティ」が生まれれば、新たな可能性が生まれるように思います。

日本人と豪州人が分野を横断して出会い、相互の信頼を深めることで、目的・目標を共有し、お互いの強みを生かしながら具体的な協力を進め、目に見える成果を上げられるのではないのでしょうか。今、Japanarooでも、当地の日豪ビジネスの取組でも、それが前に進んでいると実感しています。

そして、「日豪コミュニティ」の中核は、日豪双方に深い理解と愛着とアイデンティティを持っている人たちです。このような人たちにとって、日豪協力の深化・発展は、まさに自分や家族の幸せに直結するものではないでしょうか。だからこそ、これからの日豪交流の重要な担い手、原動力、知恵袋、触媒となるのではないのでしょうか。

当館も、日々の課題に一つ一つ取り組みながら、大きな視野を持って「日豪コミュニティ」の構築と発展を後押ししていきたいと思えます。日豪双方の幅広い皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦

(以上)